

杉並ゆかりの文化人を映像で紹介！

杉並区では、平成25年度より区にゆかりのある文化人を紹介するアーカイブ映像集を製作しています。この事業は、杉並にゆかりのある文化人を映像に記録し、区の貴重な文化財産として保存し後世に伝えるとともに、杉並区の文化的な魅力を区内外に発信していくものです。今年も、染織家で人間国宝の佐々木苑子さん、スペイン舞踊家の小松原庸子さん、そして詩人・直木賞作家のねじめ正一さんの3名を紹介します。

杉並区は、都心に近くみどり豊かな住宅都市として、55万人あまりが暮らしています。こうした区民の中には、文化・芸術に秀で大きな評価を受ける方も多くいます。過去にさかのぼれば、井伏鱒二や太宰治、与謝野鉄幹・晶子など文豪が数多く暮らしていました。音楽家の大田黒元雄や角川書店創始者で俳人の角川源義も、日本の文化・芸術に影響を与えました。

杉並区には、現在も多く文化人・芸術家が在住しています。これら杉並にゆかりのある人々に焦点をあて、後世に伝えるとともに、区内外に杉並の魅力を発信するため、区は文化人アーカイブ事業を平成25年度から開始。日展理事長を務めた木彫家の橋本堅太郎さんと女子美術大学の学長を務めた洋画家の佐野ぬいさんを紹介し好評を得ています。今年も、佐々木苑子さん、小松原庸子さん、ねじめ正一さんの3名にスポットを当て、15分の紹介映像を製作し、区公式ホームページで配信を開始しました。

そのうちの1本では、ねじめ正一さんの半生を紹介しています。ねじめさんは、「高円寺純情商店街」で直木賞を受賞した詩人・小説家であり、阿佐谷パールセンター商店街の民芸店の店主です。ねじめさんは、番組の中で、自分が物書きだけでなく、民芸店の店主という一人の生活者としての感性を持って、詩を書くことに意味があると話します。また、子どもの頃から読売巨人軍の長嶋茂雄さんにあこがれた経緯を説明。そのあこがれや好きになるということ、あのようになりたいという気持ちがいろいろな発見や努力につながっていくことを次代へのメッセージとして話しています。



15分映像は、区公式ホームページで配信しています。また、区文化・交流課や区立図書館では、DVDの貸出を行っています。さらに、このねじめさんの紹介映像が、5月10日（日）午前9時30分～45分、東京MXテレビで放映されることになっています。